

国立大学法人北海道国立大学機構理事長の業務執行状況の確認について

令和 6 年 1 2 月 4 日
国立大学法人北海道国立大学機構
理事長選考・監察会議

国立大学法人北海道国立大学機構理事長選考・監察会議（以下「理事長選考・監察会議」という。）は、国立大学法人北海道国立大学機構理事長選考・監察会議規程（令和 4 年 6 月 23 日機構規程第 2 号）第 2 条第 8 号及び国立大学法人北海道国立大学機構理事長の業務執行状況の確認及び業績評価に関する細則（令和 5 年 1 0 月 2 6 日機構細則第 2 号。以下「細則」という。）に基づき、令和 5 年度における長谷山彰理事長の業務執行状況の確認を下記のとおり実施した。

記

1. 確認結果

当機構のミッション・ビジョンを実現するため、理事長選考時に表明した所信を踏まえ、理事長の業務が順調に進んでいることを確認した。

なお、委員からの主な意見等は、以下のとおりである。

- ・寄附が大学ごとに分かれてしまう現状に対し、三大学が一緒になったことから、個人の寄附を三大学全体で活用できる仕組みを構築してほしい。
- ・地域貢献のため、卒業学生の道内就職者数を具体的な目標として設定し、地域の協力を得ながら、道内経済への寄与を意識した取組みを進めていくことが求められる。
- ・三大学の経営を一体として捉えながらも、各大学の個性を生かすことで、単独でも機構全体の成果を見せつつ、共同研究や教育プロジェクトの実施を進めることは可能であり、こうしたアプローチにより、機構のアピールポイントが増加するのではないかと。
- ・これまでの取組みは良い方向に進んでおり、成果も上がっていると感じているが、もっとオープンな広報や説明が必要ではないかと。機構全体の活動については、学外や学内の人々も知りたい情報が多く、良い取組みを学内外にもっと発信して欲しい。
- ・資金調達の方法として、企業との連携を強化して大型プロジェクトを開始することも考えられる。特に大学は SINET を通じて、ネットワークの観点からも有利な環境があり、これらを活用して、プロジェクトを推進し、同時に人材育成の枠組みを整備することが重要ではないかと。

- ・異なる文化や分野を持つ三大学が経営統合し、依然として生みの苦しみという過程にあり、道半ばである取組みについては、やはり時間がかかると思われる。
- ・明確な問題意識を持ちながら、計画的・戦略的に取組みを進めていることが確認でき、順調に進んでいると思われる。
- ・現状は、様々な課題を認識し、その課題に対応する仕組み作りがなされた段階であると捉えており、仕組みの実行により、今後の成果がどうなるかが重要である。
- ・ヒトづくり・モノづくり基金について、基金の集め方にはもっと加速が必要だと感じた。始まったばかりで順調な滑り出しとも評価できるが、今後はより一層の努力やその結果が求められる。
- ・ヒトづくり・モノづくり基金について、短期間で多くの応援団や寄附金を集めたことは、非常に優れた取組みであり、その他の取組みも目標に従い順調に進んでおり評価できる。

2. 確認方法

令和5年度の理事長の業務執行状況について、細則第3条及び第4条の規定に基づき、次に掲げる①から⑨までの資料及び令和6年10月24日開催の理事長選考・監察会議における理事長との面談を基に確認した。

- ① 国立大学法人北海道国立大学機構理事長選考基準（令和3年7月5日合同理事長選考会議決定）
- ② 理事長が理事長候補対象者として表明した所信
- ③ 監事による監査報告（国立大学法人法（平成15年法律第112号）第35条の2において準用する独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第38条第2項に定める監査報告）
- ④ 北海道国立大学機構経営ビジョン
- ⑤ 国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等に関する報告書（令和5年度）
- ⑥ 令和5年度教育研究及び大学経営の活動実績について
- ⑦ 国立大学法人北海道国立大学機構 財務レポート2024 令和5事業年度
- ⑧ 令和5年度自己点検・評価報告書
- ⑨ 理事長からの説明資料

3. 確認の経過

- ① 令和6年6月20日開催の理事長選考・監察会議において、令和5年度の業務執行状況の確認方法について意見交換を行い、具体的確認方法を確定した。
- ② 令和6年10月24日開催の理事長選考・監察会議において、理事長の面談を実施した。
- ③ 各委員の意見を集約し、理事長の業務執行状況の確認結果を決定した。

以上